

学校名	安芸太田町立筒賀中学校
校長名	安井 誠一
所在地	山県郡安芸太田町大字上筒賀 1 7 2 番地
H P	www.akiota.jp/tsutsugachu/
学級数	4 学級
タイプ	・ ○

1 研究の概要

(1) 研究主題

「自ら学び、自ら考え、  
仲間とともに高まろうとする子どもの育成」  
～ことばの力の育成とひびきあう授業づくりを通して～

(2) 研究のねらい

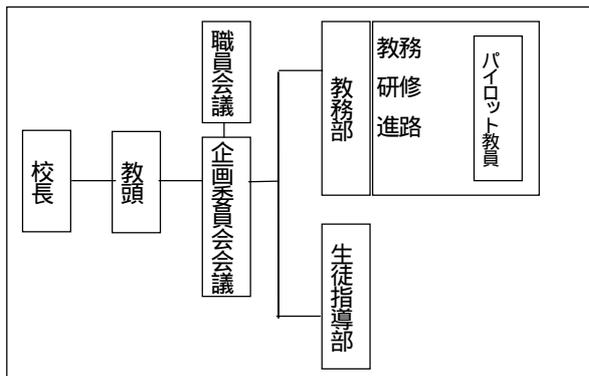
本校では、3年前から「ひびきあう授業づくり」を研究テーマに生徒の「主体性」と「高まろうとする意欲」を育てる取り組みをすすめている。この「ひびきあう授業づくり」を、本校では「生徒が意欲的に考えたり表現したりして、それが共鳴し合うことで深まりと広がりのある授業を創造すること」ととらえている。つまり、「ひびきあう授業づくり」では、教師・生徒のコミュニケーション活動が大変重要な働きをする。

そこで、昨年度からは「ことばの教育」パイロット校Typeの指定を受け、「言語技術」を活用したコミュニケーション活動によって各教科等の授業の目標をよりよく達成し、確かな学力をはぐくむことに取り組んできた。「言語技術」の手法を計画的・継続的に取り入れ、有効に活用し、「ひびきあう授業づくり」を進めていくことで、場面にに応じて分かりやすく適切に伝え合い、論理的に考え表現できる生徒を育てたいと考えている。また、生徒同士の発言のつながりや絡み合いを持たせる授業を構成することは、教師の指導力の向上につながるものと考えている。

成果検証の視点

- ア 場面にに応じて分かりやすく適切に伝え合う力を育てる。
- イ 論理的に表現する力を育てる。
- ウ 教師の指導力を向上させる。

(3) 研究組織・体制



2 2年間の取組みの概要

国語科・社会科・理科・道徳の時間を中心に、すべての教科・領域で次のように取り組んできた。

(1) 取組みの内容

年間指導計画の充実

各教科・領域の年間指導計画の中における「言語技術」を活用する単元・教材を明らかにし、相互に関連を図る。

研修・授業研究の充実

ア 理論研修（書物による）

『言語技術教育の体系と指導内容』（三森ゆりか 著）などによる。

イ パイロット教員研修をもとにした校内研修および演習

・「問答ゲーム」「再話」「描写」「説明」「絵の分析」の報告、計画的な演習の実施をする。

ウ 先進校視察（麗澤中・高等学校）

「問答ゲーム」の活用、「絵の分析」、「部屋の説明」の授業参観をする。

エ 授業研究

「ひびきあう授業づくり」の実践

「ひびきあう授業過程」をつかむ段階 見通す段階 調べたり深めたりする段階 まとめる段階と設定し、今年度は特に まとめる段階を中心に「書きことばを鍛えること」に力を入れ、各教科の学習過程に書く活動を継続して取り入れる。授業後にテープ起こしの分析もあわせて行う。

(1年次) 全教科における授業研究 13時間実施

(2年次) 全教科における授業研究 11時間実施

・教師の説明・発問や生徒の反応・発言などについて言語活動の分析を行い、次の三点を中心に研究を進める。

教材・資料の精選

教師の言語活動の整備

話しことばをもとに書きことばを鍛える

・授業研究後の校内研修において次の二つの視点で研究協議を行う。

「言語技術」を導入することによって各教科の授業のねらいがより効果的に達成できたか  
各教科での「言語技術」の有効な活用場面や方法についての交流

「ことばの時間」の実施

生徒に「言語技術」を身につけさせる時間として、毎週水曜日に15分間の「ことばの時間」を設ける。担任・学年会担当・パイロット教員が、「問答ゲーム」「絵の分析」などの指導を行い、授業や生活の場で活用させる。

「言語技術」の生活場面への活用

教師が、話す内容を整理し、わかりやすく論理的な説明をする。また、生徒会活動などで「言語技術」を用いた活動を意識的に設け継続していく。

学級・委員会からの発表

「年生の先週の目標の反省は・・・です。今週の目標は『3日間で810分以上勉強する』です。この目標にした理由は・・・」

「文化委員会からポエムコンクールについてお知らせします。コンクールの目的は・・・今年のテーマは・・・ポエムの種類は・・・募集期間は・・・」



項目を立てて・大きな情報から話す

定期テスト等の活用

論理的思考力や表現力の定着状況を把握するために、各教科の定期テスト等に考察を文章で答える問題を入れる。

考察したことを文章で 「滝落ちて 群青世界とどろけり」 この俳句について、この滝は大きいのか小さいか。そう考えた理由も答えなさい。	思考力・書く力 わたしは滝は大きいと思います。なぜかという、俳句をみると「とどろけり」と書いてあるからです。そのぐらゐ音が響くほど大きいと思ったからです。 滝は大きい。なぜかという、「とどろけり」という語から滝の音が山々に響き渡るくらい大きな滝だということをおぼせるからだ。
---	---

普及活動

ア 実践事例集の作成

年間指導計画をもとに、各教科・領域で「言語技術」を用いた授業案を作成し「実践事例集」としてまとめる。

イ パイロット教員による普及活動

他校の校内研修や管内の「ことばの教育」研修会等で「言語技術」の紹介と演習を行う。

(2) 実践事例 [国語科 (第2学年)]

単元の紹介

ア 単元名 平家物語 那須与一

イ 本時の目標

与一の言動から彼の心情を自分の感じ方と重ねて読みとる。

授業の様子

主な学習活動	生徒の反応
1 与一が、扇の的を射る前にしたことを確認する。	
2 なぜ与一が神々に祈ったのか考える。 <span style="background-color: #ffffcc;">「言語技術」の活用</span> なぜ弓の名手の与一が神々に祈ったのか、文章の表現を根拠に考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「当たり前外れは分かりませんが」とあり絶対当てるという自信がないうで祈っている。</li> <li>・「いづれもいづれもはれならずといふことぞなき」というみんなが見ている中で源氏の代表だから失敗できないし</li> <li>・「北風激しくて～ひらめいたり」とあり、扇が定まらずとも射落とすのが難しいから。</li> </ul>
3 「これを射損ずるものならば・・・」について考える。 与一が「もし射落とせなかったら自害する」と考えたのはなぜでしょう？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗したら自分の恥でもあるし源氏の名に泥を塗ることになるから。</li> <li>・矢を絶対当てるために、失敗したら死ぬと自分を追い込んで集中力を高めている。</li> </ul>
4 まとめ 与一がなぜ神に祈り、失敗したら自害すると考えたかを書く。 <span style="background-color: #ffffcc;">書く活動</span> 「与一は、義経に選ばれたのにこれを失敗すれば一生の恥だと思ひ、これをはずしたら自害しようと思ひ強く念じたのだと思ひ。沖では平家の人がたくさん見ているし、陸では味方も注目しているのでどうしても当てなければならない。それくらい責任を感じ、神にも祈って矢の真ん中を射たいと願ったのだと思ひ。」	

成果と課題

文章の表現を根拠として考えることができた。日頃書くことが苦手な生徒も、複数の意見をもとに与一の思ひを考えて書くことができた。より多様な表現にしていくために、語彙力をつける必要がある。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

伝え合う力の育成

主語を明確にし、長く話したり書いたりできるようになった。体験したことを600字程度にまとめて書けるようになってきた。

また、書き出しや構成を工夫し豊かに表現できるようになっており、作品コンクールにも

「トーン！」「トーン！」と移る太鼓が鳴った。「いよいよジラミッドだ。」ほくほくも不安だ。それは、練習でも一番完成度の低いのがこのジラミッドだったから。た。ほくほくは四段のジラミッドの一番下の内側だ。一番下は足下は安定しているが、内側には約三分の体重がのしかかってくるのである。重い。とにかく重い。三人を支える一本の腕がきしむまじりに痛

擬音語からの書き出し、短文の連続、比喩などを効果的に用いている。

全員が複数応募している。

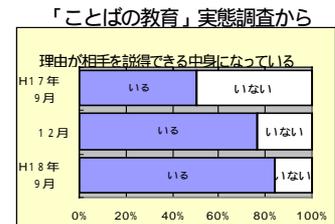
「相手に分かりやすい構成で話す」「理由を明らかにして書く」などができるようになってきた。

自分の立場を明確にして「郷土の名所」と「伝統芸能」の二つの視点から理由を考え書いている。

職員室等で用件を言う際、理由や目的をはっきりさせたり、TPOを考えたりするようになってきた。

論理的な表現力の育成

同調する発言や似ている発言をしたり、相手の反論を予測して複数の視点で理由を述べたりするなどの説得力のある話し方ができるようになってきた。



理科の時間に観察したものを比較して違いを見つけたり、実験結果の考察をまとめて話したり書いたりできるようになってきた。

教師の指導力の向上

生徒の中から答えを引き出していくことを意識し、多様な発言が出る発問を工夫するようになった。考察などの時間を確保したり書かせたりして生徒に考えをまとめさせるようになった。年間指導計画にもとづき「言語技術」を用いた授業実践を行い、事例集をまとめている。授業後にテープを起こすことで授業者の癖がよく分かり改善することができた。

(2) 課題

短時間で効果的に「言語技術」を身につけられるような指導方法・教材の開発などをすすめるなければならない。生徒が積極的に自分の考えを述べ、お互いの発言にかかわって質問したり、活発に意見を述べ合ったりして思考を深める授業づくりが課題である。(教師の指導力の向上)